

NEWS RELEASE



株式会社アマダ
担当 広報・IR部

切削・工作機械事業拠点、土岐事業所オープン

アマダ（社長 岡本 満夫）は11月25日、かねてより岐阜県土岐市に建設していた土岐事業所の稼働を開始した。新事業所は子会社のアマダマシンツールが担当し、工作機械と切削機械の製造を中心に、開発センター機能、販売サービス機能をあわせ持つ事業拠点となる。製造面では、年間2,400台の生産能力を持ち、最新生産管理システムの導入による効率生産、温度管理、振動対策などを施してあり、マシンの高効率な製造を可能にする。またテクニカルセンター（TC）を併設し、顧客の加工ニーズに幅広く対応するほか、Q・C・D（品質、価格、納期）のすぐれたソリューションを世界へ発信する情報基地としての役割も果たす。

オープン当日（11月25日）は、お披露目も兼ねて業界の団体代表、顧客など合わせて70人を招きイベントを行った。年内毎週金曜日、土曜日にオープン記念イベントを実施し、400社400名をお招きする予定。

土岐事業所の敷地面積は15万6,657平方メートルで、ここに工場棟、TC棟、エネルギー棟などを建設、延べ床面積は合わせて3万9,925平方メートル。事業所の従業員は450名、総投資額は150億円。

愛知県小牧市の工作機械工場、福井県坂井市の切削工場の老朽化に加え、工作機械、切削機械の需要拡大により生産能力が不足してきたことから建設に着手したもの。神奈川県伊勢原市の伊勢原事業所、静岡県富士宮市の富士宮事業所、兵庫県小野市の小野工場に次ぐ当社4番目の事業所として誕生、工作機械、切削機械の生産をここに集約する。

新設の工場は、組立ブースにジャストインタイムでモジュールを供給する屋台ブース生産方式を導入、効率の高い生産を行う。とくに高精度マシンを製造するため温度管理、振動対策のほか、二重の振動対策を講じた恒温室に最新の加工機を設置するなど、高精度加工を徹底的に追求した工場となっている。

一方、実証加工を行うテクニカルセンターでは、最新の旋盤、研削盤、バンドソーを設置、マシンの機能・性能だけでなく、操作性、作業性を確認できるなどソリューション提案が可能となった。またエンジニアによる加工技術セミナー、専門家の講演会などを開催、最新情報を随時発信していく。

さらに開発センターでは、機械・ソフトなどを総合的に開発するコンカレント開発、熱、ひずみなど様々な課題を設計段階でバーチャル検証するフロントローディング開発など、課題に適合する手法を用いて商品開発に取り組む。

アマダは環境との調和をコンセプトに土岐事業所の建設に着手。最大出力 300kW/h の太陽光パネル、地熱利用の空調システム、夜間電力を利用した蓄熱システムなどの採用によって TC 棟はオール電化を達成、事業所内で創造するエネルギーだけで賄うゼロカーボン施設となっている。

中部地区は工作機械の大口需要先である自動車メーカーが拠点を構え、その市場を狙って工作機械メーカーがひしめく激戦区。土岐事業所の完成を機にこの“巨大市場”の開拓に注力、業績のさらなる拡大を図る。

以 上